

平成27年度 鳥取県議会タイ訪問団 報告書

[平成27年10月13日(火)～17日(土)]



鳥取県議会

1 訪問日程及び訪問先

平成27年10月13日(火)～17日(土)

タイ王国バンコク

※詳細は「4 日程表」のとおり

2 訪問団メンバー

団長 浜田 妙子 議員

副団長 澤 紀 男 議員

秘書長 福田 俊史 議員

野坂 道明 議員

<随行者> 議会事務局 調査課

課長補佐 村中 和彦

議事・法務政策課

課長補佐 山根 茂幸

3 所感及び県政に対する提言

急速な経済成長を続けている東南アジアの中核国であるタイは、自動車関連企業や家電メーカーを中心に、多くの日系企業が進出するなど我が国との経済交流が活発であり、また、日本を訪れるタイ人観光客は、平成26年で前年比45パーセント増の657,600人に達し、過去最高を記録するなど、驚異的な伸びをみせている。

このような中で、本県議会として初めてとなるタイ訪問団は、タイの成長力を本県に取り込むとともに、人的交流の拡大を図るため、タイからの訪日観光客の動向、タイと日本の経済交流等の状況、本県からのタイ進出企業の活動状況、鳥取県産品のタイへの輸出の可能性等について調査することなどを目的にタイ王国バンコクを訪問した。

今回の訪問は、8月17日にバンコクで発生した爆弾テロ事件の影響も懸念しながらの訪問であったが、その心配はまったくの杞憂であった。現地では、現場となった「エラワンのほこら」も1週間もたたないうちに開放されるなど、事件に迅速、冷静に対応され、海外からの観光客数も日本人以外は大きな落ち込みはなく推移しているということであった。観光業が国内総生産(GDP)の約10%を占める観光立国であるタイは、事件を機に防犯カメラを大幅に増設するなど一層の安全確保に取り組んでおり、市民も観光客も平穏な日常を送っていた。

まず、タイからの観光誘客について、現地の動向と課題について具体的に述べたい。

我が国を訪れるタイ人の数は、短期滞在を目的として訪日するタイ人に対する査証免除が、平成25年7月1日から開始されたことにより、同日から平成26年6月までの1年間で、前年同期の73%増の約58万人に大幅に増加した。平成26年からはバンコクと日本の間にLCCが就航したこともあり、平成26年7月からの1年間で、前年同期の29%増の約75万人に達し、引き続き好調に推移している。

このように訪日観光客が急増する中で、その訪問先として鳥取県を選んでもらうことが肝要であり、鳥取県にはタイ人にとって魅力的な素材がそろっていることから、それらを売り込んで鳥取県への誘客を図る今が絶好のチャンスの時期である。今回の調査において、現地の方々と意見交換する中で、タイ人は小さい頃からアニメを通して日本にあこがれを抱いていることや、雪と温泉、安心安全、美味しい食べ物への期待と信頼度は、私達の想像以上に高いことを実感し、山陰情報をストレートに上手に提供していけば、鳥取県が訪問先となる可能性は大きいと確信した。

ちなみに、タイの訪日旅行者は、リピーターが多く、初めての訪日客の多くはゴールデンルートといわれる、東京、富士山、京都、大阪を訪問し、2回目では、北海道、九州が訪問先となっ

ており、現在は、それらの次の訪問先となるべく各自治体が競い合っている時期である。タイ人は、食べ物ではカニ好きで、「蟹取県」を標榜する鳥取県は十分競争力があり、さらに、フルーツ好きで果物狩りが好き、暑い国なので雪が珍しいなど、タイ人にとって鳥取県はうってつけの訪問先である。訪問団では、鳥取県がタイ語で作成した観光パンフレットを持参して、訪問先と意見交換を行ったが、パンフレットには鳥取の雪景色を撮った写真がないなど、タイ人が求めるものと乖離しているように感じた。タイ人の嗜好、ニーズを十分に調査し、これらにマッチした情報発信が必要だと考える。

他県の例であるが、佐賀県でロケが行われたドラマがタイで大ヒットし、大勢のタイ人が佐賀県を訪問しており、さらに北九州市でも同様の取組が行われているとのことであり、メディアを活用した戦略的な観光誘客の重要性を改めて認識した。鳥取県でも放送コンテンツによる海外展開に取り組んでいるところであるが、更なる積極的な展開の必要性を感じた。

また、タイ人の旅行形態は、団体旅行から個人旅行へ移ってきており、現在は約7割が個人旅行であるといわれている。個人で鳥取に来てゆっくり滞在して「鳥取ならではの」を楽しんでもらえるよう、交通機関等に関する情報や個人向け観光ルートの提案など、きめ細かい情報提供が必要であると感じた。さらに、個人旅行者向けに有効な情報発信方法は、タイ人観光客が自らのSNSで鳥取県の観光情報を発信し、口コミによって拡散していくことであると訪問先からお話があった。タイでは見たことのない景色や写真映りのきれいなところで写真を撮り、SNS等で情報共有することがタイでも一般的ということであった。ここで大切なのは、タイ人の視点で面白い、珍しいと思える景色等を紹介することである。佐賀県では、地元日本人が見向きもしないような場所がタイ人の間では有名な観光スポットとなり、大勢のタイ人観光客が訪れている例もあり、鳥取県でもタイ人ブロガーの活用やSNS等での情報発信ができる環境整備等を図る必要性を感じた。

次に、タイへの鳥取県の農林水産物の輸出の可能性について述べてい。

タイ人は甘い果物が大好きということであり、タイは熱帯に位置し果物が豊富に採れるが、甘くておいしい日本の果物はタイでも大人気である。東南アジア最大級のショッピングセンターの中核をなすパラゴンデパートを訪問したが、店内には富有柿1個約850円、梨1個約900円など、たくさんの日本産の果物が大変な高値で販売されており、鳥取県の果物等が受け入れられる可能性は非常に高いと感じた。

パラゴンデパートを運営している「ザ・モールグループ」を訪問して、バイヤーの方々などと意見交換したが、鳥取県産品に興味津々で、何が有名で、いつ採れるかなど、次々に質問を浴びせられ、日本の食品の人気とバイヤーの方々の熱意を実感した。カニ、柿、梨など、数多くのおいしい鳥取県の食べ物を紹介したが、先方から出荷時期等を記載したカレンダーがほしいといった要望があり、タイ語での鳥取県の農林水産物のカレンダーなどにより、効果的・効率的な売り込みが必要であると感じた。

その一方で、鳥取はどこにあるのか分からないといった声も聞かれ、県自体の知名度のなさを痛感した。バンコクで開催される食品展への出展など鳥取県の食品の紹介もされているが、フェアは一時的なものであり、何を売り込むかも含めて戦略を立てて継続的に売り込みを続けることが必要である。他の訪問先では、フェアへの出展等には行政の支援があるが、その後の販売等になると一切支援がなくなるといった声も聞かれ、民間企業等と協働で官民一体となって売り込み、迅速にビジネスに繋げるためには、単発のフェアだけでなく、鳥取県と既に繋がりのできたタイ在住の日本人を大切にしながら、丁寧なフォローアップを続けることが必要であると考え。

阜県は、以前は知名度がなかったが、バンコクでのトップセールスなどで県の知名度とともに農産物の人気も上昇し、中でも柿が主力商品となっており、1個5千円もする果宝柿は旧正月のプレゼントに最適であると、毎年購入する人もいるとのことであった。鳥取県には他県に負けない豊富な農林水産物があり、鳥取県産のブランド構築等により、バンコクでの販売促進に大きな可能性があると感じた。在タイ日本国大使館の佐渡島大使からは、農産品の売り込みイベントなどの会場として大使公邸を使用すればよい、場所代は無料であるし信用度もアップするとの積極的なお話もいただいた。大使公邸の活用も検討すべきである。

次に、経済交流や人材育成の状況と課題等について述べていく。

タイでは、約4,500社の日系企業が活動しており、業種別ではサービス業49.5%、製造業47.0%となっている。最近では、サービス業や中小企業による進出が増加しており、鳥取県内企業は既に5社が進出し、現在数社が進出を検討しているということであった。

タイ経済は、ここ20年でGDPが3倍になるなど急成長しており、中でも自動車産業の集積が進み、アセアンでの生産拠点となっているが、タイ政府の内需刺激策の反動による国内販売の減少と輸出の伸び悩みにより、自動車生産台数の減少など、低迷が続く状況にある。こうした中で、新たな産業として、介護関連サービス事業が今後有望となる可能性があるとのことであった。タイでも、高齢化が急速に進行しているが、日本のような介護保険制度はないため、介護病棟の研究をする医療機関もあるようで、わが国で発達した高齢者向けサービスに係るシステムの輸出や企業の進出先としてのポテンシャルは高いと考えられる。

また、タイの労働者は高給を求めて転職を繰り返す人が多く、せっかく労力をかけて育成した人材が、スキルが上がった途端に他社に転職してしまうことが、進出企業の共通の悩みということであった。タイに進出する中小企業は、人材育成、従業員研修まで独自で十分に行うことができる場所は多くないと思われ、こうした分野における県の支援の充実も求められていると感じた。

今回訪問した泰日工業大学は、日本のものづくりの思想のもと、技術知識、技能、魂を伝授し、優秀な技術者、中核産業人材を育成する目的で、平成19年(2007年)に開学した私立学校であり、日本語科目を全学生に必修とし、卒業生の約半分は日系企業に就職するなど、人材供給の重要な役割を担っている。学長からは、日本の大学への留学などを希望する学生は多く、複数の日本の大学と交換留学等の交流をしているが、鳥取県内の大学とは交流していないので、交流先を是非紹介してほしいとお話があった。泰日工業大学では、英語で授業を行う国際ショナルスクールとなることを検討中であり、実現すれば留学した鳥取の学生は英語でのコミュニケーション能力の向上も期待できる。さらに、両国の学生が互いの文化、歴史などの理解を深め、グローバルな人材育成に役立つと考えられ、今後、県内の大学との交流に発展していくことを期待している。

今回の訪問を通じて、タイの人やまちの熱気にじかに触れ、世界の成長エンジンといわれるアジアの中核を担うタイの潜在的な可能性を肌で感じる事ができた。鳥取県が東南アジアビューローを平成25年11月に開設してから、まだ約2年しか経っておらず、タイとの経済交流支援、観光プロモーション支援、タイ国内の関係団体等とのネットワーク形成支援などは、緒についたところである。タイ語でのあいさつの言葉には、「幸せですか」という意味が含まれていると聞いた。いわば「あいさつを交わしたばかり」のタイと鳥取県が、互いに「幸せ」ですと微笑んでこたえられるよう、タイと鳥取との交流が広がり、関係が発展することを願い、訪問団員一同、支援していきたい。

4 日程表

月 日	日 程	移 動	宿 泊
10月13日 (火)	7:05 鳥取砂丘コナン空港→羽田空港 7:15 米子鬼太郎空港→羽田空港 11:20 羽田空港 15:05 →バンコク・スワンナプーム空港 (時差-2時間)	ANA292 ANA382 JL031	バンコク
10月14日 (水)	9:00 ・鳥取県東南アジアビューロー 調査 10:30 ・山陰合同銀行バンコク駐在員事務所 調査 13:00 ・JETROバンコク事務所 調査 14:30 ・在タイ日本国大使館 表敬	借上バス	バンコク
10月15日 (木)	10:00 ・JNTOバンコク事務所 調査 14:00 ・タイサミットメイジフォーミング 調査	借上バス	バンコク
10月16日 (金)	10:00 ・泰日工業大学 調査 14:00 ・パラゴンデパート 調査 18:00 ・WAGYU SAMURAI 調査と夕食	借上バス	バンコク
10月17日 (土)	9:45 バンコク・スワンナプーム空港→羽田空港 20:05 羽田空港→米子鬼太郎空港	JL032 ANA389	

5 訪問先の概要

【平成27年10月14日(水)】

(1-1) 鳥取県東南アジアビューロー

〔応対者〕 小林絢香 プロジェクト マネージャー

鳥取県東南アジアビューローのこれまでの活動(取組)の状況、タイでの観光プロモーション支援の状況等について、説明を受け意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

- ・鳥取県東南アジアビューローは、平成25年10月に県が開設し、委託を受けて、「VT Nipponn」が運営している。
- ・タイから日本の旅行者は、リピーターが多い。第1波は、東京、富士山、京都、大阪の「ゴールデンルート」といわれる行程で旅行。第2波は北海道、九州を旅行。今は、第3波がどの地域に行くか、東京に飽きた旅行者をいかに取り込むか、各自治体が競争している。
- ・鳥取は、タイ人の好きなポイントが多く、観光的な魅力があり、旅行商品が作りやすいと聞いている。タイ人の好きなポイントは、山、砂丘などの自然。フルーツピッキング。タイ人にはフルーツが欠かせない。海鮮。特にカニ。若い人を中心として、現在、和牛ブームである。スキーもでき、鳥取県はすべてそろっている。
- ・鳥取県の課題は、交通が不便であること。
- ・現在、大阪はホテルがとりにくいため、旅行会社としても周辺地域に観光客を呼びたいと考えている。
- ・タイ人は買い物も大好き。旅行先が鳥取だけだと難しい。大阪と合わせて鳥取に来てもらうような行程がいいと思う。

- ・タイ人は何を求めて日本に来ているか、ニーズを把握することが重要。おいしいものは東京にそろっているが、生産地にも行ってみたいくなるものである。カニの水揚げを見て、釜揚げして、食べるといった、体験型の旅行を提案してはどうか。
- ・11月18日～21日にバンコクで開催される、METALEX2015（アセアン最大級の金属加工系展示会）に鳥取県からも2社（株）寺方工作所、（株）ササヤマが出席。人気の展示会で、日本からの申し込み枠はすぐいっぱいになり、ビューローが予約した。大きな展示会で、200社くらいが集まる。
- ・タイの輸入品に係る食品検査は厳しく、タイ保健省食品医薬品局（Food and Drug Administration：FDA）から「食品輸入業許可」を事前に取得する必要がある。
- ・タイでは、豚肉、鶏肉が主。従来は牛肉を食べなかったが、若い人は食べるようになった。
- ・タイ人は甘い果物が好き。ドリアンが高級フルーツ。10月にWAGYU SAMURAIで開催された鳥取フェアでは、3倍くらいの値段のなしが売れた。
- ・タイ人はカニが好きなので、鳥取県の食品で最もヒットしそうなのはカニだと思う。タイ人は、たれをつけて食べるので、たれも重要である。
- ・以前は、デパートの物産展は北海道フェアが多かったが、最近ほどの自治体も力を入れている。
- ・タイは、ロコミ文化である。各自治体がメディア戦略を考えている。
- ・鳥取からタイに輸出している農産物は、なし、和牛、酒など。
- ・タイは女性の就業率が高く、待遇に男女差はない。食事は屋台で買って済ます家庭が多く、キッチンのない家も少なくない。



東南アジアビューローのみなさんと



東南アジアビューローのあるビル

(1-2) 山陰合同銀行バンコク駐在員事務所

〔対応者〕 山田裕介 所長

タイの経済・産業の状況、鳥取県とタイの貿易の状況、タイへの日本（県内）企業の進出状況などについて説明を受け、意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

- ・タイへは、地銀は16行が進出。メガバンクは4行が出店。ここでは、進出企業のサポート、情報収集を行っていて、売り上げはない。売り上げのある支店として出店するには、資本金を積み、許認可などハードルがある。
- ・この事務所では、アセアン全域をカバーしている。先月はベトナムに行った。周辺国は、インフラの整備がまだまだと感じた。
- ・大使館、地元商工会とタイアップし、11月に、バンコクに進出した7行で、初めての試みとして、交流会を開催する。1行が30社程度呼ぶこととしていて、広域で交流する。
- ・日本からタイへの進出企業は、小さい企業、地銀のつきあいのある会社に移ってきている。
- ・約4,500社の日系企業がタイで活動しており、業種別では、サービス業は49.5%、製造業47.0%（2014年）となっている。
- ・タイは、転職を繰り返す人が多く、定着率は高くない。
- ・タイへの進出企業は、設立計画は綿密に作るが、人材育成計画までは作っていないことが多い。日本を知っているタイ人を講師に、タイ人従業員向けに集合研修をサポートしている。
- ・タイは日本食ブームで、ショッピングモールなどでも日本食が多い。タイにある日本食レストランは2,700店舗とも言われ、1年で1割が入れ替わっている。日本食人気の理由は、珍しいこと、ステータスになっているからである。
- ・日本に行きたい、働きたいタイ人は多い。
- ・タイ人には、カニ、雪が人気で、北海道に旅行に行く人も多い。伊勢丹で北海道展を開催したところ、タイ人が8割を購入した。日本ブランドは質がいいと評価を受けている。
- ・タイ人は、携帯が好きで、ポーズを決めて自分を撮る。食事も自分で撮って、ネットにあげて拡散することも少なくない。
- ・タイのテレビに出ている芸能人を広報に起用した県もあった。実際にそこにタイ人が旅行に行っている。
- ・タイ人に、佐賀県は人気がある。普通の家にホームステイし、地元の人も知らないような神社に行ったりしている。
- ・タイではオニツカタイガーが人気がある。皇族が履いていて、自分も履きたいという人が多い。
- ・第5土曜日には、鳥取県と島根県の出身の人が集まって、同郷会という県人会をやっている。会員数は70人強。
- ・以前は、日本での介護の人材をタイに求めたが、今は、日本の介護のシステムをタイに導入しようとする動きがある。タイでは子供が親を見る文化があるが、タイでも少子高齢化が始まっている。
- ・タイには、約10万人の日本人が長期滞在している。タイの医療水準は高く、長期滞在者向けの介護サービスを、病院と組んでできないか調査を始めているところもあると聞く。
- ・バンコク日本人学校は、世界にある日本人学校の中で最大級の規模。1学年14、15クラスあり、児童生徒が3、4千人在籍し、140台のスクールバスで通っている。



山田裕介所長を囲んで

(1-3) ジェトロバンコク事務所

〔応対者〕 保住正保 所長

タイの経済・産業の状況、日本とタイの貿易の状況、タイへの日本企業の進出状況などについて説明を受け、意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

- ・タイの人口は約6,600万人。タイ国内には、不法移民が300万人いるとも、500万人いるともいわれる。バンコク圏には、約1,000万人が暮らしている。
- ・タイでは、今年、憲法が制定されたが、タイ王国となって80年間で20本目となる。クーデターが起きると選挙制度を中心に憲法を改正している。日本とは憲法に対する感覚が違う。
- ・バンコクから約70キロ、北にあるアユタヤの海拔は7メートルであり、ここは広大な平地が広がっている。
- ・近年、タイ経済は、横ばい状態である。2012年に、自動車購入支援策として物品税の還付を実施した。その結果、自動車販売台数が増加し、自動車会社は生産能力を増やし、タイ国内で300万台の生産能力となった。しかし、その反動で、現在は、内需が落ちている。自動車需要が回復し、300万台の生産体制を国民は期待している。
- ・タイ国内を走っている自動車の93%が日本車である。日本の自動車メーカーは、50年代からタイに入っていて、ここ20年で自動車保有台数が急上昇した。というのも、ここ20年でタイのGDPは3倍になっていて、日本の60、70年代の様相である。土地神話があり、タイ人はみな下がらないと信じている。タイでは、地震がないので、高層ビルでも、鉄骨はなく、鉄筋で建物を作っている。
- ・2013年には、タイの最大の貿易相手国（貿易額（輸出+輸入））は、日本から中国となった。中国経済の減速は影響が大きい。
- ・地方の産業は、農業が中心である。米、ゴム、キャッサバ、砂糖などを栽培している。コメは2期作だが、今年はエルニーニョの影響で雨が降らず、ダム貯水率は3割程度になっていて、2期作用の水がない状況である。
- ・タイからの輸出品目は、自動車・同部品、コンピュータ・同部品、ガソリン、宝石などである。自動車産業は、クラスターを形成しており、タイの優位性の一因となっている。

- ・タイの失業率は1%で推移している。しかし、自動車工場は、最近、2シフト制を1シフト制にし、生産能力を減らしている。労働者は、地方に戻って農業に従事するので、失業率にカウントされない。また、数百万人の外国人を受け入れている。
- ・タイから日本への旅行者は、リピーターが多い。タイの電車の広告で東北地方のキャンペーンをやっていた。ひとつだけの県ではなく、北海道イン、羽田アウトなど、共同でキャンペーンをやっている。各自治体とも一生懸命である。
- ・タイの予算規模は9兆円くらい。クーデター後、内閣を作って、景気刺激策を行った。内閣は、元政治家、民間が入った形で組織している。
- ・外国資本による対外投資の4割は、日本である。政府投資は少なく、外国法人の直接投資によって外貨を獲得している。
- ・日本の海外投資は、アセアン向けの投資が中国向けを上回っている。
- ・建設業、食品加工、ゴム園などに、外国人労働者が入っている。経済が発展しているところは、外国人労働者に依存していることが多い。シンガポールは3分の1が外国人労働者である。タイでは、当初は建設業を中心に入っていたが、今は金融業などに入っている。
- ・タイ社会は移民で成り立っているが、クーデター前まで外国人労働者を歓迎していなかった。クーデターで外国人労働者が出身国に戻ったため、労働者不足になった。外国人がいないと社会が回っていかないことが、タイ国民は分かった。
- ・タイでは人口の10%が不動産の9割を持っており、財閥がパワーを持っている。
- ・日本は、介護保険制度が充実しているが、タイにはまだ制度がない。病院が介護病棟を研究するなど有望な分野になりえる。
- ・タイ人は、みんなラインでつながっている。フェイスブックでのPRが有効。タイ語での観光発信は必須。口コミも有効。タイ人が観光で日本の地方に求めるものは、雪、食べ物だと思う。



保住正保所長との意見交換の様子

(1-4) 在タイ日本国大使館

〔応対者〕 佐渡島志郎 全権特命大使

大使を表敬訪問し、日本とタイとの交流状況などについて意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

- ・この大使館は10年前に建て替えた。各国にある大使館の中で大きい方である。各自治体が大使公邸をイベントに使っており、今年春に私が赴任してからも、3、4の自治体がイベントに使った。例えば、北九州市は、同市で撮影したテレビドラマの発表会を大使公邸で行ったし、秋田県は、酒の試飲会を行った。鳥取県も大使公邸を使っていたきたい。大使公邸を使用するメリットは、使用料がかからないことと、日本がバックアップしているようで信用度に違いが出ることである。会場は、座席なら100人くらい。立席なら、200人くらい容易に入る。
- ・各自治体が、農産品の売り込みなど、トップセールスを行っている。効率のいい売り込み方法は、日本の会社5社、タイの会社5社ずつくらいの会社が実績等があるので、そこに頼むと仕入れから販売までやってくれる。闇雲にやるよりいい。
- ・タイ人は雪が好き。さっぽろ雪まつりでは、国際雪像コンクールで優勝したほどで、手先も器用である。
- ・タイから日本への観光客は、今年は90万人に届きそうな勢い。タイからは、北米、ヨーロッパは遠く、日本は手ごろな距離にある。日本への旅行者はリピータが多い。他人が行っていないところに行くのが自慢になる。
- ・タイでは、少子高齢化が進んでいる。日本より速度が速い。
- ・タイにいる日本人は、登録している人で6万人。ここで死亡する人が、毎年100人以上いる。医療環境もかなりの水準にある。医学関係で日本に留学する人も多い。
- ・日本への留学生は15万人くらい。地震、火山もなく、気候が温暖であるなど、住みやすいため、留学後、自国に戻ってくるタイ人が多い。



佐渡島志郎大使との意見交換の様子

【平成27年10月15日（木）】

（2-1）JNTO（日本国政府観光局）バンコク事務所

〔対応者〕 伊東和宏 所長

タイの訪日観光客の動向、訪日観光客の誘客活動の現状と課題、鳥取県への観光誘客の方策などについて説明を受け、意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

- ・タイの爆弾テロ事件では、3,000人の日本人客のキャンセルが出た。しかし、タイへの旅行者数は、日本人以外は減少しなかった。
- ・各県が同じことをしていてもだめ。他の人が行かなそうなツアーとか、特化して売り込むことが必要。温泉、刺身は、どこの県も同じ。その県ならではの、おまつり、イベントの情報を提供しないとイケない。
- ・タイから日本への旅行者数は、2013年7月から15日間の滞在ビザが免除になったため、73%伸びた。翌年も、LCCが就航した影響で29%伸びた。
- ・タイ人の旅行形態は、団体旅行から個人旅行に移っており、6～7割が個人旅行になっている。JRパスは、個人旅行者の8～9割が買っていて人気がある。
- ・個人で鳥取に来て、ゆっくり滞在してもらえる商品を提供する必要がある。JRパスとか、個人が鳥取に行きやすい情報を提供する。個人の旅行ルートの情報も提供しないとイケない。
- ・タイ人は写真を撮ってSNSで情報共有している。留学生にアルバイトとして、カメラをもって観光地を回ってもらい、タイ人目線で見てもらう。タイで見たことのない景色を撮ってもらう。
- ・タイ人の砂丘の評価は、「すばらしい」と「見なくていい」の2つに分かれる。中東に行ったことのある人は行ってみたいと思わない。
- ・タイでも、鬼太郎、コナンは人気。また、カニが大好き。雪も珍しい。
- ・日本に旅行するリピーターが増えており、次の旅行先に鳥取を選んでもらうようにすればよい。スキーやスノボをする人も出てきた。
- ・タイ人は1週間の日程で日本に行くのが一般的で、うち1泊は旅館に宿泊する。旅館のおもてなしに慣れていないので、今後も旅館に泊まるかどうかわからない。それは、気疲れする、食事の時間等が決まってい自分に合わせてくれないといった理由である。
- ・タイ人は、買い物自体が好きで、市場やショッピングモールなどで少しずついろいろ買いたい人が多い。爆買はない。
- ・健康に気を使っている人が多く、マラソンは、これからはやる。地方マラソン、ふれあいマラソンはタイ人に受ける。マラソン後におにぎりを食べるとかもよい。
- ・タイ人の旅行には、ゴールデンルート（東京→富士山→京都→大阪）がある。一番最後がハズでないと旅行を作りきれない。ゴールデンルートの次の旅行先は、北海道と九州であった。今は、その次にどこに来てもらうか、どの自治体も頑張っている。
- ・鳥取へは、大阪往復で旅行行程を作るのが一番よい。広島から直行便があると繋ぎやすい。城崎からのルートも作る必要がある。
- ・コナンの館は評判はよい。外国人が評価すると日本人も評価しがちである。
- ・妖怪の概念はタイ人も好き。1年中ホラー映画を上映しているし、ドラマでもお化け物をやっている。
- ・千葉県は、イチゴ狩りで売って、タイ人の立ち寄りが増えた。タイ人は、果物狩りが好き。いちごが好き。イチゴファームを整備して、PRして、観光客が増えた。

- ・果物狩りでは、タイ人はあまり食べないで、写真を撮る。農場が荒れないので、農家の評判がいい。
- ・タイの旅行シーズンは、学校の休みのある4月、10月。次の山が12月。4月は、タイだけでなく、韓国中国も桜を目指して日本に来るので、ホテルが取れない。鳥取はホテルが取れるとPRすればよい。
- ・九州は、今年は当たり年。ドラマ誘致で頑張った。例えば、北九州市、佐賀県、最近福岡など。新幹線の全車両を借り上げた会社もあり、富裕層がいる。



伊藤和宏所長を囲んで

(2-2) タイ・サミット・メイジ・フォーミング社

〔応対者〕 市村健二 経営部長 ほか関係職員

会社の事業概要、海外事業展開の利点と課題などについて説明を受け、意見交換を行った。意見交換終了後、工場を案内していただいた。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

- ・タイ・サミット・メイジ・フォーミング社は、4社の合弁会社で、資本金は455ミリオンバーツ（約16億円）。2010年（平成22年）操業を開始。敷地面積は1万坪だが、半分しか使っておらず、将来的には増設も可能。
- ・明治製作所がタイに進出したきっかけは、20数年前にタイに進出していた新興工業が鍛造会社とジョイントしたいという意向があつて声がかかったものである。
- ・自動車メーカーは海外に拠点を作り、現地調達しており、日本での製造は先細り状態である。タイはアセアンへの輸出などで成長していて、今後も伸びる可能性が大きく、魅力的である。
- ・同じ工業団地内には、スズキ、マツダ、GM、フォードなどがあつて、タイ進出により、新たな取引先が増えた。逆に日本でもやろうという話もある。
- ・勤務体制は2交代制。シフトの空いた時間は残業しながら対応し、24時間操業している。
- ・従業員は100名。うち日本人駐在員が2名。従業員の平均年齢は20代。
- ・工場の周辺にまちはないので、従業員は、通勤用のバス4台で1時間圏内から出勤する。
- ・タイ人は、定年までひとつの会社とは思っていない。愛社精神はない。給料がいいところにすぐ転職する。労務管理では苦勞している。

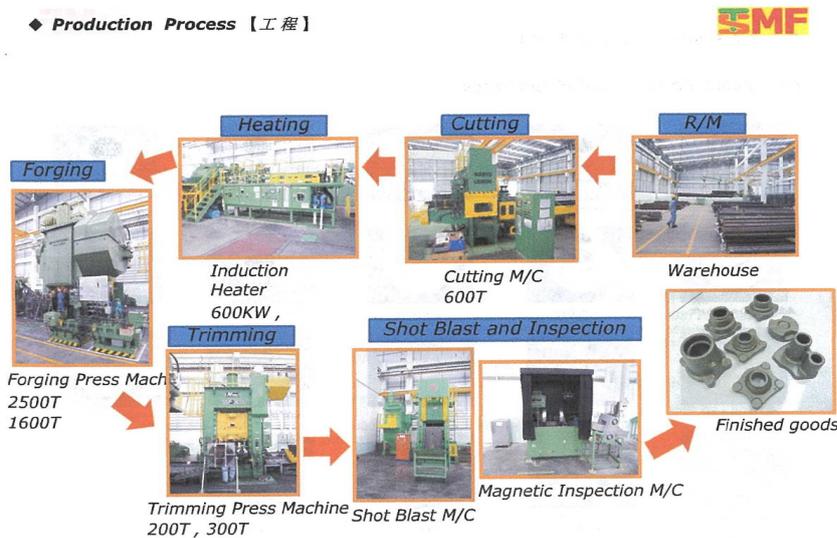


タイ・サミット・メイジ・フォーシング社のみなさんと



工場見学の様子

◆ Production Process 【工程】



◆ Forged Products 【鍛造製品】

◆ Proposed Parts for 2,500 ton Press



【製品重量：2~5kg】

◆ Forged Products 【鍛造製品】

◆ Proposed Parts for 1,600 ton Press



【製品重量：1~2kg】

生産工程と製品 (タイ・サミット・メイジ・フォーシング社作成資料から抜粋)

【平成27年10月16日（金）】

（3-1）泰日工業大学

〔対応者〕 バンディット・ローツアラヤノン 学長、ポーンアノン・ニヨムカ・ホリカワ 副学長、児崎大介 国際広報部講師 ほか関係職員

泰日工業大学の概要、人材育成の方針、タイの大学と日本の大学との交流の現状などについて説明を受け、意見交換を行った。意見交換終了後、大学を案内していただいた。主な意見交換内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

- ・泰日工業大学は、2007年（平成19年）に開学。現在は4,000人を超える学生が在籍している。学生は、日本に行きたい、日本語を学びたいので、入学してくる。
- ・卒業生は、5割以上が日系企業に就職している。
- ・在籍生徒のうち、卒業できるのは5割くらい。
- ・タイと日本の関係強化には人材育成がカギになる。
- ・日本に行きたい学生は多いが、日本の宿泊代は高く、年間200人しか日本に送れない。日本の大学との連携で、学生を送れるところを増やしたい。飛行機代は学生が出すので、学生寮など宿泊できる場所を提供してもらえると一番助かる。
- ・安倍首相の紹介で、岡山の大学と交流が始まった。鳥取の大学を紹介してほしい。
- ・日本の大学から泰日工業大学への留学生も多い。英語の授業もある。異国体験もできる。夏休みに40人くらい、年間100人以上日本人留学生を受け入れている。
- ・インターナショナルスクールとなることを検討中である。実現すればすべて英語で授業することになる。今は特定教科だけで英語での授業を行っている。
- ・大阪府の工業団地、企業にインターンシップしている学生がいる。日本でインターンシップをしたい学生が多い。
- ・タイの大学進学率は、高校3年まで行った中では、3、4割。全体での進学率は20%前後で、20万人くらい。
- ・日本とタイの職業観は違っている。泰日工業大学での4年間の教育で、学生は日本の職業観を身につけ、企業からも評価を受けている。日本語は300時間の授業時間数である。言葉の裏に文化がある。時間を守ることと5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）の2つを身につけるだけで大きく違う。
- ・タイの識字率は95%と高い。
- ・大学はお金がかかる。私立大学の学費は高く、国立の倍くらい。文系学部の収入で工学部の赤字を埋めている。タイで技術大学は少ない。
- ・私立大学への国からの補助はない。企業からのサポート、基金の取り崩しでやっているが、学校運営の黒字化は難しい。



学長、副学長を囲んで



意見交換の様子



学内の図書館にある「安倍文庫」(安倍首相が寄贈された図書)

(3-2) パラゴンデパート

〔応対者〕 The Mall Group 社 バイヤーのみなさん

パラゴンデパートを運営している「ザ・モールグループ」のバイヤーの方々と、日本産の食品の販売状況、鳥取県の農林水産物の販売の可能性等について、事務所で意見交換を行った。意見交換の後、パラゴンデパートに移動して、日本産食品の販売現場を調査した。主な意見交換内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

- ・モールグループは13か所を運営している。うち、10か所がモールで、3か所が高級グルメマーケットである。日本フェアで日本産品を購入するのは、主にタイ人である。
- ・昨年、パラゴンデパートで、日本ふるさと名産食品展を開催し、鳥取からも出展があったが、フェアのときだけでなく、輸出入を続けることが大事である。
- ・販売には県の認知度が必要。鳥取はどこにあるか分からない。以前、岐阜県は認知度がなかったが、トップセールス等により、今は認知度が上がった。柿は正月用プレゼントとして毎年購入する人もいる。

- ・タイでは北海道が一番有名。商品だけでなく、地域の魅力も発信しないとイケない。北海道の白いトウモロコシが275バーツ（約950円）で売っていた。
- ・カニを宣伝すべし。鳥取の食品をタイミングが合えばもっと宣伝したい。
- ・タイ人は、日本のコメもタイのコメも両方気に入っている。食べたらみんなおいしいと思っている。
- ・もちしゃぶ、もちの加工品はあるか。もちは珍しく、みんなに人気がある。
- ・タイ産と日本産の果物の価格は全然違う。品質も種類も違う。おいしければいい。みんな分かっている。
- ・11月に開催される物産展では、鳥取の観光パンフを置いた方がよい。
- ・鳥取製品のカレンダーがあるとよい。全体イメージが分かる。
- ・タイには果物、肉は入っているが、加工品はまだ入っていない。ラーメン店を出店してほしい。



意見交換の様子



「次郎柿」売場



ザ・モールグループのみなさんと



デパートの日本食品売場

(3-3) レストラン WAGYU SAMURAI

〔応対者〕 Samurai Food Services社 福島孝義 Director

タイでの和牛の販売状況、9月に開催された販路拡大イベントの状況などについて説明を受け、意見交換を行った。主な意見交換内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

- ・本物の和牛を、オールジャパンのひとつのブランドとして、輸出している。
- ・レストランへの客は、当初はほとんどが日本人だったが、最近、日本人は4割程度である。
- ・タイ人は刺身は食べるが、牛肉は4割しか食べない。生卵も食べない。
- ・高級車で乗り付け、食事をしていく富裕層のタイ人もいる。
- ・9月に10日間、鳥取の食材展示即売会を開催した。扱ったのは、鳥取和牛、長芋、新甘泉、あぶいかまぼこ、はたはた、のどぐろ。
- ・同時に、ズワイガニ、鳥取和牛などの鳥取県の特産品を使った会席コースのクーポンを事前に72人に販売したが、大雨で14人のキャンセルが出て、結局計58人であった。
- ・クーポンは個人的な人脈を通じて買ってもらった。ビューロー、ジェトロなどには、もう少し応援してほしい。
- ・年度中にもういちど鳥取フェアを開催する予定である。
- ・和牛肉はパラゴンデパートにもおいてあったが、タイには料理する文化がないので、売れなかった。
- ・北条ワイン、稲田姫、梨のスパークリングワインなど、とっとりの酒を販売する準備もしている。
- ・イベントは一過性に終わってはいけない。とっとり和牛は販売まで体制が整った。
- ・行政はイベント支援など販売が始まるまでは支援するが、始まってからは支援がない。
- ・日本食材を豊富に取り揃えているフジスーパーには、20世紀ナシが置いてある。



福島正孝 Director との意見交換の様子



レストランの入口